

寸

寸の古い形は、で、手の象形に、脈所の位置を示した・のしるしを加えた指事字です。手首から脈所までの距離を、短い長さをはかる時の単位とし、これを「^{スン}寸」と言いました。一寸法師というのは、この長さです。一寸の十倍を一尺と言い、十尺を一丈^{ジョウ}と言います。また一間^{ケン}（^{たたみ}畳一畳のたての長さ）というのは六尺です。

寸は、部首としては、多くは“基準”“きまり”の意味で使われます。また、単に“手”（又）の意味に使われることもあります。

寺は、^シ土と寸との会意形声字です。土は“役人”のことですから、寺は、役人がきまりに従って、物を取りきめるところ、つまり“役所”が本義です。中国に初めて仏教が伝来した時、僧に役所を住居として与えたので、僧のいる所を「寺」と呼ぶ習慣が生まれました。そして、僧院がもっぱら「寺」と呼ばれるようになりますと、寺は役所の意味には次第に使われなくなりました。音は^シ土または^ジ土です。

侍は、寺、つまり役所に勤める人という意味の字です。今の官公吏に当たることばですが、日本の昔では“武士”（さむらい）に当たります

ので“さむらい”と読んでいます。また、侍は君側に“はべって”奉仕するので“はべる”“さぶらう”意味にも使われます。侍従、侍臣、侍女。

討は、“きまり(寸)に従って議論(言)する”ことです。「討議」「討論」は、ルールに従って、相互に自己主張をし、また相手を攻撃します。この場合、相手の論旨の欠点をすばやくとらえて、そこを攻撃することが大切です。そこで“攻撃する”“攻める”という意味にも使われます。討伐、征討。

導は、“頼るべき基準(寸)に従って、人を道びく”ことです。思いつきや、いい加減な考えで行なう「指導」は、導の本義にもとります。ガイドさんが、一定のコースを案内し、一定の解説をしています。これはりっぱな「導」です。誘導、先導、教導。

尊は、“酒を入れた酒器を捧げ持って、神または貴人にそなえる”ことを表わした字です。古い字形はで、両手で酒がめを捧げている形になっています。酒を供えるのは相手を“たつとぶ”心の表われであるところから“たつとぶ”という意味を表わしたものです。音は^{スン}寸が変化してソン。尊敬。

わが国では、神や貴人に対する敬称として「尊」の字を用い、これを「みこと」と読ませています。日本武尊。

樽は、酒を入れる木製の容器、つまり“たる”のことです。

尋は、**ヨ**(**彳**で手の象形)と**亼**(左の省略した形)と**口**(右の省略した形)と**寸**(単位)との会意字。つまり、**尋**は、両手を広げて伸ばした時、左手の指先から右手の指先までの長さを、やや長い距離をはかる時の単位とし、これを尋としたのです。わが国では、これを、両手を広げるところから“ひろ”と言いました。「ちひろの海原」というのは、「千^{ちひろ}尋」の意味で、大変に深いという意味ですし、「千^{センジン}尋の谷」というのも、大変に深い谷という意味のことばです。

射は、古い字形はで、弓に矢をつがえた形に手がそえられています“まさに弓をいる”ことを

表わした字です。後に、弓に矢をつがえた字形が、身に似ている所から、誤まって今の字形になったものです。「**射**」という字体にでも改めたらどんなものでしょうか。

専は、古い字形はで、手に (糸まきの象形)を持った形を表わしています。“子供が糸まきをひとりじめして手から離さない”という

意味の“独占”を表わしています。“もっぱら”“専門、専心、専属、専任、専用。

守は、きまりの意味の寸と家との会意字で“家によくきまりが行なわれている”という意味の字です。“きまりをまもる”ことです。